

パオちゃん's EYE

2025年4月1日 発行 No.97



らくようじゅ クスノキ じつは落葉樹？

クスノキ（クスノキ科）は倉敷市の市木であり、街路樹や公園樹として身近な存在です。

2025年3月27日、自然史博物館の正面入り口前の通称「くすのき広場」で興味深い現象が見られました（上写真）。左側の株は葉をほとんど落とし、右側の株は葉を付けているのです。図鑑には常緑樹（一年中緑色の葉を付ける木）と書かれていますが、左の株は落葉樹と見紛う姿です。

クスノキの葉1枚の寿命は約1年です。通常は春の芽吹きに入れ替わるように落葉するため、樹上から葉が消えることはありません。しかし、時に芽吹く前に落葉しきってしまい、一時的に落葉樹のような姿になることがあります。上の写真のように隣り合った株で落葉のタイミングが違う理由は分かりませんが、その株の個性や健康度、環境条件の違い（例えば風当たり、乾燥）などによるのかもしれませんが。

同じクスノキ科の常緑樹でも、シロダモやヤブニッケイは葉の寿命が1年よりも長いため、樹上から葉が消えることはまずありません。葉を触ると、クスノキの葉は薄くてやわらかく、シロダモやヤブニッケイの葉は分厚くかたい質感です。寿命が長い葉ほど、しっかりとしたつくりになっているようです。

鐵 慎太郎(植物担当)

パオちゃんズアイに関するお問い合わせは

倉敷市立自然史博物館

〒710-0046 岡山県倉敷市中央 2-6-1

電話:(086)425-6037 FAX:(086)425-6038

E-mail:musnat@city.kurashiki.okayama.jp



「パオちゃん's EYE」
は博物館ホームページでカラーで見られるよ！

